

天平勝宝二年三月一日の暮に、春苑の

桃李の花を眺矚して作る二首

四一三九番

春の園 紅にほふ 桃の花 下照る道に 出で  
立つ娘子

四一四〇番

我が園の 李の花か 庭に散る はだれのいま  
だ 残りたるかも

翻び翔る鳴を見て作る歌一首

四一四一番

春まけて もの悲しきに さ夜ふけて 羽振き鳴  
く鳴 誰が田にか住む

二日に、柳黛を攀ちて京師を思ふ歌一首

四一四二番

春の日に 萌れる柳を 取り持ちて 見れば都の  
大路し思ほゆ